



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE柏2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	OM柏ビル	階数	地上6F
建設地	千葉県柏市高田1399番6.7	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年2月13日
敷地面積	915㎡	作成者	梅景 弘宜
建築面積	591㎡	確認日	2018年2月16日
延床面積	2,035㎡	確認者	中塚 圭郁



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 86%

③上記+②以外の 86%

④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 建物配置や底など建築物による環境配慮、通風や採光といった環境配慮の両面に配慮した計画としている。空調設備において、高効率型ビル用マルチエアコンの採用による省エネを図っている。また、換気設備において全熱交換器を採用し外気負荷の低減及びCO ₂ 制御、ナイトバージ運転を行い省エネを図っている。		その他 特になし。
Q1 室内環境 東西を壁面、南北を開口とした構成とし、開口部には庇を設けることで日射抑制を図っている。換気量は、30m ³ /h・人を確保している。また、外気取入れ面と排気面を変えることによりショートサーキット防止に配慮し	Q2 サービス性能 柔軟性のある執務空間とし、将来の可変に対応した計画としている。また、埃のたまりにくい計画、ガラス面の清掃性に配慮した計画としている。給水及び給湯管にステンレス鋼管、排水管には硬質ポリ塩化ビニル管を採用。空調配管の更	Q3 室外環境(敷地内) 建築面積が大きいため空地率が低い計画であるが、庇やピロティによる歩行者への配慮、隣地や道路との境界に緑化による緩衝帯を設ける計画としている。
LR1 エネルギー 階段室を利用した換気システム、執務室の開口を南北に配置することによる通風を行った自然換気を利用した計画としている。空調設備において、高効率型ビル用マルチエアコンの採用による省エネを図っている。また、換気設備において全熱交換器を採用し外気負荷の低減及び	LR2 資源・マテリアル リサイクル材の利用や再利用可能性への取組は特に行っていないが、必要以上の建築躯体、材料を使用しないように配慮している。衛生器具において節水型器具及び自動水栓を採用している。	LR3 敷地外環境 敷地外へ最低限の環境配慮を行う計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

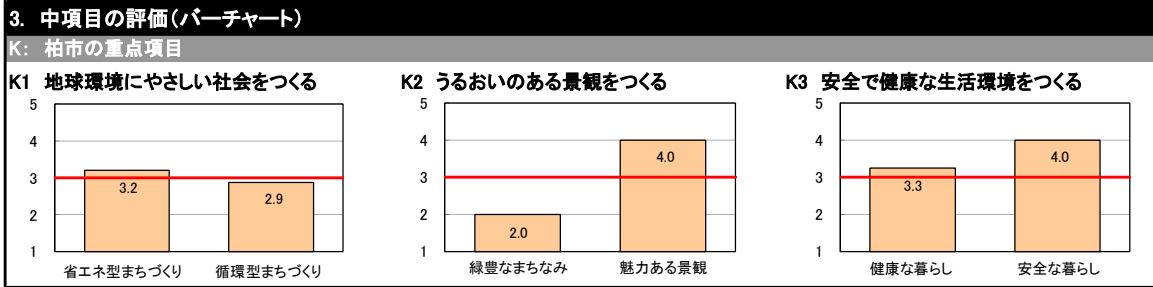


評価結果

■使用評価マニュアルASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE柏2016(v2.1)

1 建物概要			
建物名称	OM柏ビル	建築物の環境効率 (BEEランク)	B+ ★★★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	取組み度 ※ (得点/満点)	評価結果	
K1 地球環境にやさしい社会をつくる	3.0 / 5.0	ふつう	
K2 うるおいのある景観をつくる	3.0 / 5.0	ふつう	
K3 安全で健康な生活環境をつくる	3.6 / 5.0	ふつう	
※ 対応するCASBEEのスコアと主な指標を元に、独自に設定された条件で評価をします。(左記は評価結果の凡例)	すばらしい 4点以上 	ふつう 3点以上 	がんばろう 3点未満



4. 設計上の配慮事項	
<p>K1 地球環境にやさしい社会をつくる</p> <p>自然換気や採光などを活かした計画としている。空調設備において、高効率型ビル用マルチエアコンの採用による省エネを図っている。また、換気設備において全熱交換器を採用し外気負荷の低減及びCO2制御、ナイトバージ運転を行い省エネを図っている。</p> <p>必要最低限の建築躯体、材料とする計画としている。</p>	<p>スコアシート</p> <p>1. 省エネ型まちなみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.1 建物の熱負荷抑制(LR1-1) スコア 3.0 1.2 自然エネルギーの利用(LR1-2) スコア 4.0 1.3 設備システムの高効率化(LR1-3) スコア 3.0 1.4 効率的な運用(LR1-4) スコア 3.0 <p>2. 循環型まちなみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 2.1 雨水利用・雑排水再利用(LR2-1.1) スコア 3.0 2.2 雨水排水負荷抑制(LR3-2.3.1) スコア 3.0 2.3 非再生性資源の使用量削減(LR2-2) スコア 2.5 2.4 廃棄物処理負荷抑制(LR3-2.3.4) スコア 3.0
<p>K2 うるおいのある景観をつくる</p> <p>敷地と道路・隣地の境界には積極的に緑化を行う計画としている。</p> <p>敷地と道路の境界には高い塀は設けず、緑化と合わせて低い塀とすることで、周囲のまちなみに溶け込んだ景観づくりを行っている。</p>	<p>スコアシート</p> <p>1. 緑豊かなまちなみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.1 生物資源の保全と創出(Q3-1) スコア 2.0 <p>2. 魅力ある景観</p> <ul style="list-style-type: none"> 2.1 まちなみ・景観への配慮(Q3-2) スコア 3.0 2.2 水空間の創出 設置の有無 - 2.3 道路沿いの緑化 緑視率の確保 O
<p>K3 安全で健康な生活環境をつくる</p> <p>自然換気や採光などを活かした計画とすることで、健康な暮らしに配慮している。換気量は、30m³/h・人を確保している。また、外気取入れ面と排気面を変えることによりショートサーキット防止に配慮している。</p> <p>建物の強度、材料、動線計画など、誰にとっても安全・安心な計画としている。</p>	<p>スコアシート</p> <p>1. 健康な暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.1 空気質環境(Q1-4) スコア 3.5 1.2 バリアフリー計画(Q2-1.1.3) スコア 3.0 <p>2. 安全な暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> 2.1 耐震・免震(Q2-2.1) スコア 3.0 2.2 防犯対策 防犯性の配慮 O